

Solan Primary School
4th grade news letter

Venture Fourth

2023 Aug. 25

悲願8強

日本の誇り



なぜ、日本代表は史上初のベスト8を達成することができたのか。

4年前の新聞です。
ラグビーの日本代表がついに悲願のベスト8を達成しました。
『悲願』ってどういう意味ですか？
(ずっと強く願い続けてきたこと、という意味です。)

なぜ、日本代表は史上初のベスト8を達成することができたのでしょうか。
(チームワークが良かったから。)
(一生懸命練習をしたから。)
(目標を達成するために頑張ったから)

1995年 第3回大会
開催国：南アフリカ
ウェールズ

「悲願」とは、さっき発表にあったようにずっと強く願い続けてきたこと、という意味があります。その思いの強さを知る為には、歴史を知らなくてははいけません。
ちょっと、タイムスリップしてみましょ。今から29年前。渡辺先生が小学校6年生の時です。日本代表はウェールズと戦いました。
勝ったと思う？負けたと思う？

1995年 第3回大会

開催国：南アフリカ

- 10-57 ウェールズ
- 28-50 アイルランド
- ニュージーランド



日本は敗れました。
続くアイルランドにも敗れました。

3試合目。

相手のニュージーランドは、主力メンバーではなく、2軍メンバーで臨んできました。

日本は勝てたのでしょうか。

(子どもたちのほとんどは負け予想)

実際の映像を見せました。

日本代表が、オールブラックスと戦っている映像です。

次々とトライを決めるニュージーランド代表。

日本選手のタックルは次々と交わされました。

そして試合が終わりました。



1995年 第3回大会

開催国：南アフリカ

- 10-57 ウェールズ
- 28-50 アイルランド
- 17-145 ニュージーランド

大敗

結果は、17-145。

歴史的な大敗でした。

最多失点記録など、ワースト世界記録を6つも作ってしまいました。

報道には、左の文もありました。

「国辱」とは、簡単に言えば「国の恥」という意味です。

(子どもたちは、とても神妙な顔つきで左の文章を読んでいた。)

スタンドから中身が残っている缶ビール、紙コップが飛ぶ。
「これがW杯？金返せ」の意味だ。
「国辱」とも映った。
観客が去り始める「もう時間の無駄」とばかりにロスタイムはない。

<p>なぜ、日本代表は史上初のベスト8を達成することができたのか。</p>	<p>もう一度尋ねました。 「なぜ、日本代表はベスト 8 を達成することができたのでしょうか。」 (悔しさをばねに頑張った。) (練習のやり方を変えた。) (仲間と励まし合った。)</p>
<p>1999年 第4回大会 開催国：ウェールズ</p>	<p>4 年後。 先生は高校一年生になりました。 ラグビーワールドカップ第 4 回大会はウェールズで開催されました。</p>
<p>1999年 第4回大会 開催国：ウェールズ サモア</p>	<p>初戦はサモア。 日本は勝ったでしょうか。 それとも負けたでしょうか。 (ほぼ全員が負けたと予想)</p>
<p>1999年 第4回大会 開催国：ウェールズ ● 9-43 サモア</p>	<p>負けました。 9-43。 またもや、大差での敗北です。</p>
	<p>「当時の新聞記事です。 再び、「惨敗」の2文字。 感想をどうぞ。」 (残念です。) (また負けた。) (悔しい。)</p>

<p>1999年 第4回大会</p> <p>開催国：ウェールズ</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 9-43 サモア ● 15-64 ウェールズ ● 12-33 アルゼンチン 	<p>「続く 2 試合も負けました。 この年も、日本代表は全敗です。」</p>
<p>2003年 第5回大会</p> <p>開催国：オーストラリア</p>	<p>さらに 4 年後。 再びワールドカップの都市がやってきます。 先生は、20 歳。大学生です。 5 回大会はオーストラリアで行われました。</p>
<p>2003年 第5回大会</p> <p>開催国：オーストラリア</p> <ul style="list-style-type: none"> スコットランド フランス フィジー アメリカ 	<p>「この年から予選は 4 試合。さて、日本は何勝何敗だったでしょう？」 (最も多かった予想は 1 勝、次いで 2 勝との予想でした。0 勝予想はいませんでした。)</p>
<p>2003年 第5回大会</p> <p>開催国：オーストラリア</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 11-32 スコットランド ● 29-51 フランス ● 13-41 フィジー ● 26-39 アメリカ 	<p>「この年も、日本代表は全敗でした。」 この時、子供達がスコアを指して言い始めました。 (点差が縮んできている) (ほんとだ！) 負けは負けでも、スコアの差が確かに減ってきています。</p>
<p>2007年 第6回大会</p> <p>開催国：フランス</p>	<p>「さらに 4 年たって、またワールドカップの年が来ました。 先生は 24 歳。小学校の先生になって働き始めた頃です。開催国はフランスでした。」</p>

<p>2007年 第6回大会</p> <p>開催国：フランス</p> <p>オーストラリア フィジー ウェールズ カナダ</p>	<p>「この年戦ったのは、この4つの国 日本代表は何勝したでしょう。」 （最も多いのが1勝、次いで2勝で した。やはり0勝という予想はあり ません。今度こそ勝った！と考えた ようです。）</p>
<p>2007年 第6回大会</p> <p>開催国：フランス</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 3-91 オーストラリア ● 31-35 フィジー ● 18-72 ウェールズ △ 12-12 カナダ 	<p>「結果はこうになりました。」 （あ！） （カナダと引き分け！）</p>
	<p>「新聞記事です。とても小さく、こ の記事が掲載されました。」</p>
<p>なぜ、日本代表は史上初のベスト8を 達成することができたのか。</p>	<p>再び尋ねました。 「なぜ、日本代表は史上初のベスト8 を達成することができたのでしょ う」 （ずっとあきらめなかったから） （勝とうという強い思いがあった） （何度負けてもくじけなかった）</p>
<p>2011年 第7回大会</p> <p>開催国：ニュージーランド</p>	<p>さらに4年後。 ニュージーランドでワールドカップ が開かれました。</p>

<p>2011年 第7回大会 開催国：ニュージーランド</p> <p>フランス ニュージーランド トンガ カナダ</p>	<p>「何勝できたと思う？」 (今度こそ勝った！) (2勝はしたはず！) (負けるなニッポン！)</p>
<p>2011年 第7回大会 開催国：ニュージーランド</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 21-47 フランス ● 7-83 ニュージーランド ● 18-31 トンガ △ 23-23 カナダ 	<p>結果です。 までも引き分け。勝利はなし。 「つまり、先生が小学生の頃から大人になるまで、ラグビーの日本代表は一度も勝利していないのです。『日本は勝てない』『日本は弱い』多くの人が思っていました。先生も、そう思っていました。」</p>
	<p>当時の新聞記事です。 「この頃には、日本はベスト 8 を達成するという目標を明確に掲げます。そのために、ワールドカップで2勝を目指しました。」</p>
<p>2015年 第8回大会 開催国：イングランド</p>	<p>「さらに4年がたちます。 この大会は知っている人もいないかもしれません。」</p>
<p>2015年 第8回大会 開催国：イングランド</p> <p>南アフリカ</p>	<p>「初戦の相手は南アフリカ。過去ワールドカップを2度優勝している、世界屈指の強豪チームです。」</p>



試合の映像を見せました。
子どもたちは、本気で応援していました。
結果が分かっている子もそうでない子も、画面に向かって一所懸命声を上げていました。



「試合終了間際。
29-32と大接戦を繰り広げた日本は最後のペナルティのチャンスで、スクラムを選択します。キックを選択すれば、引き分ける可能性大の場面、コーチからもキックの指示、しかし選手たちはそれを跳ね返します。」

2015年 第8回大会
開催国：イングランド

24年ぶり勝利！
○ 34-32 南アフリカ

『引き分けるために4年間頑張ってきたんじゃない。引き分けても、歴史は変わらない。勝って、歴史を変える』
こうして試合終了直前に日本はトライを決め、大逆転勝利をおさめます。
教室中が大興奮となりました。



「新聞記事。
号外です。
先生が小学校の頃から24年間、ずっと勝てなかった日本代表が、ついに勝利したのです。しかも世界ランク3位の強豪南アフリカから。」

2015年 第8回大会
開催国：イングランド

24年ぶり勝利！

- 34-32 南アフリカ
- 10-45 スコットランド
- 26-5 サモア
- 28-18 アメリカ

「快進撃は続き、この年日本代表は3勝1敗の好成績。惜しくもベスト8は逃しましたが、世界中が日本の躍進に驚きました。」
どんなチームの変化があったのかを伝えるため、田中選手の本から引用して伝えました。



朝食から15分後、すぐエディーに呼び出されて会いに行ったら、エディーは心底キレていた。
「なんであんな異言をしたんだ！」
 僕は自分の英語と通訳を介して、こう言い返した。
 「選手は練習メニューの内容や意味を理解して練習をしているんやなく、ただやらされているだけと聞いた。それじゃ意味ないやろ！」
 エディーも反論してきた。
「日本人はやらされないとできない。外国人と違って、自分の意志でやるのがまだできない。だから今はやらせているんだ！」
 「練習の意味をわかってやってこそ、選手は成長するんやないのか」
 「エディーとケンカしたくて言ってるんやない。俺はエディーと一緒に日本のラグビーを強くするために、こうして言っているんや。俺にキレるんやったらキレてもいいけど、その代わりに日本代表はちゃんと強くなってや」
「そうだったのか。ならばこれからも一緒に強くなっていこう。ただ、メディアではなく、直接俺に言ってくれ」



練習を終える円陣で、僕は激昂した。
「なんで100パーセントの力でやらないんや!!」
 ワールドカップ前の2015年7月、スーパーラグビーでの戦いを終えてニュージーランドから戻ってきた僕は、パンパシフィック・ネーションズカップでアメリカとカナダを撃退していた日本代表に合流。3位・4位決定戦の対トンガ戦。その2日前の練習でのことだ。キャプテンのリーチ・マイケル（東芝ブレイブルーパス）がニュージーランドのチーフスで実行していたコンタクト（体を強く当てるプレー）のセッションをみんなで行うことになっていた。リーチや駒江翔人（パナソニックワイルドナイツ）、マイケル・ブロードハースト（リコーブラックラムズ）は全力で向かってきたが、100パーセントの力でコンタクトしてこない選手がいたことに、僕は憤りを感じた。
 僕が小さいから手加減したのか、2日後に迫る試合前のケガを恐れたのか、理由はわからない。でも、そんなことは関係ない。

なぜ、日本代表は史上初のベスト8を達成することができたのか。

再び問いました。
「なぜ、史上初のベスト8を達成することができたのですか。」
 （強い気持ちがあった。）
 （絶対勝つんだと思い続けた）
 （あきらめない気持ち）



「そして今年、日本代表は4つの予選を戦いました。世界ランク2位のアイルランドをはじめ、屈指の強豪との大熱戦。最後の相手は、宿敵スコットランドでした。」

2019年 第9回大会	
開催国：日本	
○ 30-10	ロシア
○ 19-12	アイルランド
○ 38-19	サモア
○ 28-21	スコットランド

戦績を見せました。
 子どもたちからは、「おお〜」とどよめきが起きました。
 日本代表は、4戦全勝、グループ首位で史上初のベスト8を達成しました。



国の恥と言われ。
 金を返せとののしられ。



24年間ずっと勝てなかった日本代表。
新聞には、酷評が書き続けられました。



しかし、彼らは歴史を変えました。
新聞の見出しです。『日本の誇り』
(最後に、下の画面を見せて授業を終えました。)



なぜ、日本代表は史上初のベスト8を達成することができたのか。

ワールドカップイヤーに合わせて、4年前の快挙を子どもたちに授業してみました。

もう間もなく、今年のワールドカップが開幕します。

☆↓読者ページはこちらから↓☆ご意見ご感想など気軽にお寄せください

<https://docs.google.com/forms/d/1qqf4cPLcjpcWaimWdu-6IFM73JahODYK4ROldg7jLxM/edit>

